

たじみん昼話 111

風が吹けば桶屋が儲かる

風が吹けば桶屋が儲かるとは、一見関係なさそうなものが、実は繋がっていたり何段階もの現象を通して関係性がある、という意味を持つ。

これは科学の世界や小説の世界の楽しみを構成する要素の一つだ。たとえば、今流行っている謎解きゲームの面白さの要因がこれだ。解答を見つけるには、一見関係のなさそうなものの中に規則性や繋がりを見つける必要があるからだ。

この発想を生かしたのかどうかは不明だが、ずいぶん離れたもの同士に関係性を見出した人たちがいる。湯元清文九州大宙空環境研究センター長（宇宙地球電磁気学）率いる研究チームの皆さんだ。

このチームが繋げたのは、太陽の活動と地球の地震だ。

地震の予測の歴史は、不可能か可能かを長年論議しながら、多くの科学者たちが様々な方法【なまずからニュートリノ etc】に挑戦する試行錯誤の歴史だった。残念ながら、有力な方法は確立されていない。

その難問である地震予測の有力な手掛かりを、チームは太陽と結び付けることで見つけたのだ。

従来から太陽の黒点数は、約11年周期で増減して地球大気の状態を変化させてきたことがわかっている。チームは、地球内部にもこの増減が影響を与えているのではないかと考え、1963～2000年の太陽黒点数と発生したマグニチュード【以下Mとする】4以上の計32万回以上の地震との関係を調べた。その結果、M4-7.9の65%が、M7-9.9の79%が、太陽黒点数最小期に発生していたことを確認したのだ。つまり、太陽黒点数が少ない時期ほど巨大地震の発生頻度が高いことを明らかにしたのだ。（東日本大震災もこの時期に起きているのだ。）

この研究は、遠く離れた太陽活動が地球内部に影響を及ぼして地震を起こしている可能性を示唆している。詳しい原理が明らかになれば、太陽活動を観測することで地震の予測が可能になりそうだ。

太陽風が吹き荒れると地震が起こる。太陽と地震の活動をつなげる原理は不明だが、その過程には何かがあるのだろう。この現象の風と桶屋の間の説明は、多治高生の誰かに研究を引き継いで欲しい。

出でよ、未来の研究者。災害から人類を守ってくれたまえ。